

コロナ禍を契機に、さらなる発展が期待されるフィンテック

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって、私たちの生活は一変しました。ソーシャルディスタンスの確保や、不必要な接触機会を減らすことなどが求められるようになったほか、企業ではテレワークが推進されるなど、従来にはなかった生活様式が広がっています。

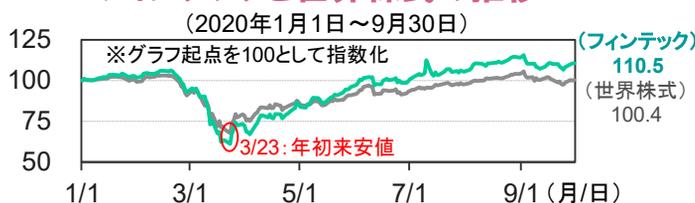
世界株式はコロナショックで急落したものの、各国・地域の積極的な財政・金融政策の実施などにより、株価は3月23日を底に回復傾向にあります【左上グラフ】。こうした中、コロナ禍で恩恵を受けると期待される銘柄やセクターなどに資金が流入し、新常态の世界に目を向けた選別が行なわれています。各種指数の騰落率を比較すると、セクターによって、リターンに大きな差が生じています。特に、フィンテック関連企業の株価指数は相対的に大きなリターンとなっており、コロナ禍に伴うフィンテックの拡がりに対して、市場からの期待が高まっていると考えられます【左下グラフ】。

例えば、コロナ禍で人との接触機会を減らしたいというニーズが拡大し、オンラインショッピングを利用する人々が増加しています。それに伴ない、フィンテックの代表例であるキャッシュレス決済の利用機会が拡大するなど、決済のデジタル化が進展しており、フィンテックの成長を後押しすると考えられます。英調査会社ユーロモニターの予測では、2019年から2024年にかけて、各国のデジタルコマース決済(モバイルやオンラインなどの電子決済)額は大きく増加するとされています【右グラフ】。

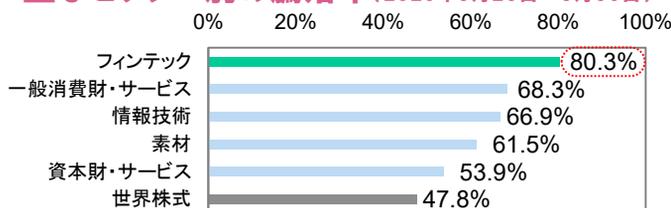
また、新たなフィンテック関連サービスも生まれており、注目されています。新型ウイルス感染拡大による景気悪化に伴う失業者の増加により、インターネットを通じて企業や個人から短期・単発の仕事を受け負う「ギグワーカー」と呼ばれる人々が増加しており、米国だけで5,700万人にのぼると推計されています。ギグワーカーは安定した収入が得にくく、一般的な金融機関のローンや金融サービスを利用することが難しい場合があることから、ギグワーカー特有のニーズに着目した融資や保険などの金融サービスを提供するフィンテック企業が出現しており、新たな市場として注目されています。

デジタル化の進展により高い成長性が期待されているフィンテックは、ウイルスの脅威がもたらした新常态によって、成長速度をさらに加速させると期待されます。

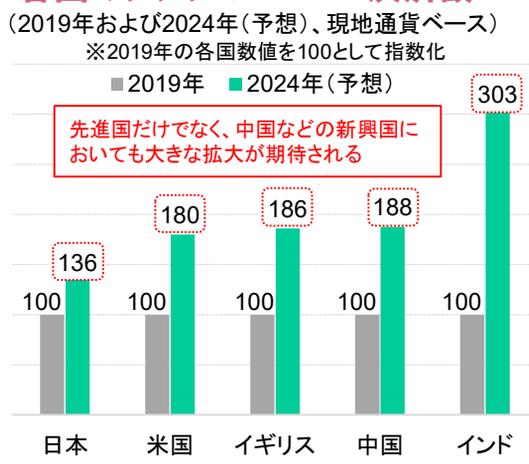
フィンテックと世界株式の推移



主なセクター別の騰落率(2020年3月23日～9月30日)



各国のデジタルコマース決済額



※世界株式: MSCIワールド指数、各セクター: 同指数のセクター別株価指数
 フィンテック: ファクトセット・グローバル・フィンテック・インデックス、いずれも米ドルベース
 ※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
 ※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。